平成11年12月10日
第 3 号

発行／富山市ＰＴＡ連絡協議会　　編集／良書をすすめる会

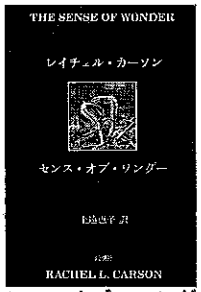
考えてみよう、たいせつなもの

私たちが住んでいる地球、動物、植物、人間、みんなかけがえのないものです。また、目には見えない心の中にも、たいせつなものがあります。

忘れてしまいがちな「たいせつなもの」をテーマに本を選んでみました。

ふれてみよう、身近な自然

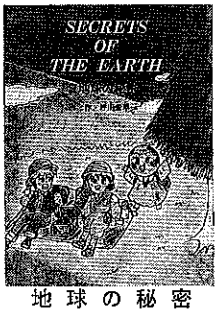
『センス・オブ・ワンダー』は美しい自然を幼い子どもにやさしく語りかけます。昔はどこにでもあった自然の風景が少なくなってしまいました。感性を育むために、自然に目を向けてみませんか。



センス・オブ・ワンダー
レイチェル・カーソン 著
上遠　恵子 訳
（新潮社　本体1,400円）

地球も生きている

『地球の秘密』　十二才の坪田愛華さんは、たいせつな地球を守るために何をすべきかを考え、得意の漫画にまとめました。完成直後に病気で亡くなった愛華さんがくれたメッセージです。この本は書店では購入できません。希望の方は連絡先に問い合わせて下さい。



地球の秘密
坪田　愛華 作
（地球環境平和財団 本体854円）
（☎ 03－5442－3161）

戦争のきずあと

現在も、戦争という文字が毎日の新聞から消えることはありません。故郷を壊され、戦争が終わっても、地雷が残っている地域で暮らしている人々がいます。『地雷ではなく花をください』の収益は地雷除去のために活用されます。私たちにもできるボランティアです。

地雷ではなく花をください
葉　　祥明 絵
柳瀬　房子 文
（自由国民社　本体1,456円）

家族っていいね

日々の忙しさに追われ、心のゆとりをなくしていませんか。そんなときふっと立ち止まって考えるのもいいですね。

『カラスのパンやさん』には、どんなに忙しくても子どもたちとふれあい、力を合わせパンを作る姿が楽しく描かれています。親子の絆、人と人とのつながり、あきらめずがんばることを私たちに思い起こさせてくれます。読んだあとに、心がほんわかする本です。やさしい気もちにさせてくれます。

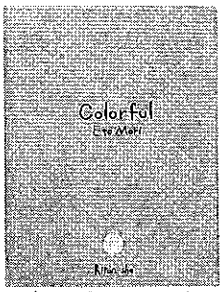
からすのパンやさん
かこ　さとし 絵・文
（偕成社　本体1,000円）

ぼくはぼくでいい

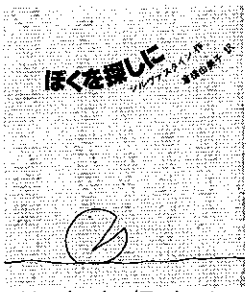
人はひとりぼっちではありません。でも、時々迷子になることもあります。

いつもの世界に自分がいない。名前があって、家族があって、学校へ行けば友だちがいる。けれど、ぼくは誰なんだ？『カラフル』の主人公は、周囲の人々に映っていた自分の姿から答えを見つけました。

親に素直になれない、友だちとうまくいかない、何か違うと感じたとき旅は始まります。『ぼくを探しに』行きませんか。一番たいせつなものが見つかるはずです。



カラフル
森　　絵都 著
（理論社　本体1,500円）



ぼくを探しに
シェル・シルヴァスタイン 著
倉橋由美子 訳
（講談社　本体1,204円）

低学年におすすめ

サンタの国は、おおいそがし！

『あのね、サンタの国ではね…』

この話は、たくさんのサンタさんがクリスマスまで、何をしているのかがよくわかる。「そうなんだー」って思えてしまうお話。

松本　智年・一色　恭子 脚
嘉納　純子 文
黒井　健 絵
（偕成社　本体1,200円）

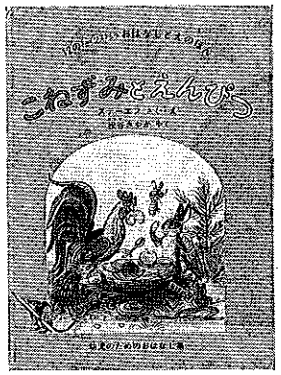
12の楽しいお話と絵の本

『こねずみとえんぴつ』

ステーエフ 作
松谷　さやか 訳

かんたんに読める短いお話と、読んでもらったらもっと楽しい、長めのお話がいくつも入った、おとくな本。

（福音館書店　本体1、359円）



中学年におすすめ

ハラハラ、ドキドキの連続

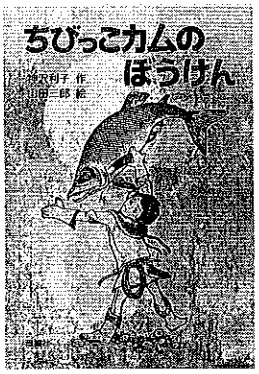
『ちびっこカムのぼうけん』

神沢　利子 作
山田　三郎 絵

お母さんの病気をなおすイノチノクサをさがしにでかけた、ちびっこカム。

動物たちの力をかりながら、何とか手に入れることができたが…。

（理論社　本体1、200円）



こんな子がクラスにいたらいいね

『スーパー・ガールいちごちゃん』

上條さなえ 作
岡本　順 画

自分さえよければと思っていたかおりが、いちごが転校してきてから少しずつ変わっていく。

読んでいるうちに夢と勇気がもてるかも…。

（学研　本体1、165円）

高学年におすすめ

老人ぎらいのペニーの日記

『ペニーの日記　読んじゃだめ』

ロビン・クライン 作
安藤　紀子 訳

いやいやでかけた老人ホームでペニーはベタニーさんに出会う。ベタニーさんはちょっとかわった人だった。ふたりは友だちになり、そして…。

（偕成社　本体1、200円）

知恵と勇気の冒険ものがたり

『まえがみ太郎』

松谷みよ子 作
丸木　俊 絵

太郎は、空飛ぶ馬の〝つばめとび〟や、〝ウシオニ〟らの協力で、村をしあわせにする「いのちの水」をさがす。スケールの大きな日本の創作昔話。

（偕成社　本体1、165円）

中学生におすすめ

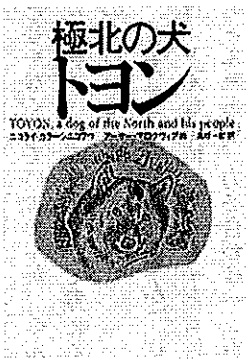
この冬、瞬をすえて読んでみよう！

『極北の犬トヨン』

ニコライ・カラーシニコフ 作
高杉　一郎 訳

両親を亡くしたダーンと、兄弟犬の中でただ一匹生き残ったトヨンは、酷寒のシベリアの大自然に学び、きたえられてたくましく生きてゆく。

（徳間書店　本体1、600円）



信じることってすばらしい

『サンタの友だちバージニア』

村上ゆみ子 作
東　逸子 絵

「サンタクロースは本当にいるの」と聞かれたらどう答えますか。バージニアがもらった返事は、どんなものだったのでしょう。大人もぜひ。

（偕成社　本体1、165円）

科学の本

ウンチだって主張してるゾ！

『きみのからだのきたないもの学』

ゲロ、フケなど人間の体から排出される「きたないもの」十九種を医学的に説明した、異色の科学絵本。自然に体の仕組みや働きの大切さがわかる。

シルビア・ブランゼイ 文
藤田紘一郎 訳
（講談社　本体1,800円）

なぜ、人は山に登るのか？

『冬のデナリ』

西前　四郎 作

一九六七年一月のアラスカ。零下五十度。風速五十メートル。高度六千メートル。

真冬のデナリ（マッキンレー峰）に八人の男たちが登った物語。

（福音館書店　本体1、700円）